

時事新報

重ねて土耳其難民者の送還に付き
土耳其難民の送還者六十餘名を本國に送還するに付き
或は露國の軍艦が其事に當らんとする風聞を傳へてより
忽ち世上の問題と爲り之を非とする者の説に云く今
回オスマン パンヤの一行は日本の國實なるが故に厚
く之を待遇して遣送すべきを要す、近者若し退ふ可らず
と雖もせめては其生を養ひたる者に對して盡す所な
る可らず、貧病者への施療等は其用意既に十分なりと
雖も露國に軍艦の備あるを幸あれ特に之を任立てし
て送還の用に供して我日本國が外國に對する禮意の厚
を示し又一には我海軍をして遠洋航海の事に慣れしむ
るの利益も少なからず左れば費用の點に立入りても單
に國體の爲めのみならず航海費を費すに非ず斯る機會に由
りて遠洋航海を試みるものなりとすれば費用論は論ずる
に足らず兎にも角にも事情の許す限りは我國人の厚意
を表す可し云々として我輩も固より之に同意する者あり
然るに爰に反對の一説あり云く今回難民の一行は我國
實たるに相違なしと雖も難民にも自から限限なる可
らざる難民の東京に達するや直に軍艦八重山を實地に派
し宮内省より特別に待醫式部官を差遣され難民負傷の
者へは夫れ、厚き手當を施し其場所の地方官も特別
に注意して救助に怠らざりしものとすれば我輩は最早
や澤山なり此以上の事は各國の交際に例なし且土耳其
は條約外の國にてもあり若し今度の一事に限り非常
特別の取扱を爲したらんは一例外を後に遺すの姿にて
今後同盟諸國の軍艦が日本近海に難に遭ふも亦あら
ば難回先例に倣ふて事を處せざる可らず到底實際に
行はる可き事にあらざり即ち今日まで土耳其人に仕向け
たる所は難民の頂上されば此上は其生を養ひたる者
何れの難民に乘るも我日本國の關り知る所に非ず全體日
本人は難國より出で俄に開國に走りたる者なるが故
に對交際の要を知らず唯外國關係の事と云へば漫
に發せ立ち前後の難民も實際に行ふ可らざる事を
行はんとして無益の空論に熟するも氣の毒されど
至極冷淡なるが如くなれども我輩の所見を以てすれば
之に難關するを得ず反對論者の云ふ今日に至るまでの
難民に難關したりとは何を標準にして立言したるもの
か、難關既に難關たりと云ふも未だ蓋さずと云ふも人
々の思ひ、なれば是れは畢竟水掛論とするも各國の
交際に先例を見ず今度に限り非常の取扱するときは
後日の例と爲りて事實に行ふ可らずと云ふに至りては
殆んど其意味を解す可らず世界廣く萬國多しと雖も條
約未結の國の軍艦が某國に使臣を載せて來り歸路その
國の近海に難關したるときは云々として適例を見
出すも可なり難關可し或は先例は殆んど皆無と
云ふも可ならん左れば論者は無き先例を無しと云ふま
でにして難關へみれば云ふも現に起りたる事難を
處する爲めに如何の考案又難關にもならざる可し又
今度難關の事例を遺すときは自今同盟國の使臣を載せ
たる軍艦に難を生したるとき其處分に困るとは如何なる
事難を期して發言したるものか開國三十餘年來今日
に至るまで唯一の難關ありしを聞かず好しや論
者の難關を實にして百年に一度も不幸あるとせんか、
難關へみれば其佛國米の他の各國は我海軍に現
在する軍艦も亦難關に似たる大難ありも難關者

を本國に護送する爲め日本の軍艦を煩はすには及ばざる可し論者の心配は之を評して過慮と云ふの外なし又日本人は外交に不案内にして漫に熱心と見せし失言なるが如し國の異同を問はず人の大不幸を見聞して同情相憐むは何處も同じ人情にして言不祥に屬すれども萬々一も我軍艦が諸外國の近海にて今回同様の不幸に逢ふもあらば外國人の感動は如何ばかりなる可きや或は難關の折も英國の軍艦は特に搜索の勢を執りたりと云ふ現に今度の事變にも獨逸の軍艦は直ちに實地に赴き難民者を救ふたにあらざるや緑もなき他國の軍艦が使臣を載せて他國に來り其他國の近海に難關したりと聞いて取るものも取り敢へず其場に出渡りたり論者は之を評して熱心に過ぐるや云ふか、英國の人は外交に不案内なるが故に益もなき事に周章奔走すと云ふか、論者も必ず其然らざるを會心するとあらん然らば則ち今土耳其人に對しては正に主人の地位に居る日本國人が熱心して哀憐の情を盡し禮遇の如何に心配するも何ぞ之を咎るの理あらんや日本人は外交に不案内なるに非ず寧ろ外交に慣れて世界的の思想を生じたる者なりと云はざるを得ず抑も今回の事は土耳其の軍艦より生じたりと雖も其事の始末に由りて影響する所は單に日本と土耳其と兩國間の交際に止まらず日本國人の感情と其情を表する實際の處分とは世界中の輿論と爲りて自から我國の光明に關するものと少くならず苟も外交の利害に注目する人は自問自答して心に審明する所のものある可し

報

八重山を派遣したる譯
土耳其軍艦の生残りたる乗組員六十三名を救助するが爲め我が海軍省より軍艦八重山を派遣したるも同艦の大砲に達したるときは早や既に獨逸軍艦ウオルフの神戶より來りて難民者を伴ひ去りたる後に折角用意したる軍艦の間に合はざりしは乘組士官杯が定めて遺徳に思ひたる所あるべけれど何と云ふにも難民の難早く神戶に達したるのみならず遠近距離の相違もあると云ふ及ばざりしも是非ありき次第あるが如し事を知りて當日横須賀に碇泊(昨日の紙上に品川とせしは誤)したる比叡、金剛の二艦中其孰れをか即日出發せしめたらんには或は後れを取るまじきと外ながら口惜き事の限りなり去りながら今其筋の人に就て聞く所は據れば比叡、金剛の二艦は其速力一時間十二海里に過ぎずして八重山は二十二海里の速力なれば假令出發の時刻少し位後るとも語り大砲に達するの早きを尙び其修理中なるにも拘はらず殊更八重山を派遣したるものと云ふべし且又金剛、比叡の兩艦には演習の爲め數十名の候補生乗込み平常よりは乗員多くして多數の難民者を乗組せしむるにも不都合ある等の事情ありて幸や八重山に決したるなり斯くて急々同艦の出發するに先ちては本艦其他の治癒品も平生備附の分より多く搭載し軍醫監を臨時に増員する等充分なる用意を爲したるも殆んど其甲斐ありしは偏に報知の後れたるが爲にして若し我國要害の場所に海岸望樓の設けあり平時時ともに難民者を救助する都合出來居らば此度の如き後悔はあるまじと云ふべし

○オスマン パンヤ 日本を喜ぶ
紀州海底に敢て最期を遂げたる土耳其國の大使オスマン パンヤは如何なる人ぞ、親しく大使に接したる人の話に大使は學問最優美にして不作法なる事荒々しきものと評はせどもなく其丁寧平和なるを形容すれば女にして見せはしと

や云ふべき又所々の公場を縦覽の折も大抵の外國人なれば如何に彼れは如何に種々奇聞を以てそはく、物珍し氣に見え勝なるに大使は始終物靜にして却て此方にては注意深くらぬにやと心懸する程なれば應接掛の人々外客には物珍らしき方なりと噂せるよし以て大使が温厚沈着の君子なりしを知る可し又大使の話に我々共が此赤帽子を冠り歐洲諸國へ來れば道々見る人種々しく殊に小供と恐口云ふも多しあり此儘にては先行かれぬ次第あるに日本には斯る事絶えて無きのみか山水風光も何所やら我土耳其に似たるやうに思はれ他國へ參りたる氣持は致さぬとてしみ、日本を喜ぶ風情ありと云ふ

二十三年九月廿三日
時事新報社御中
土耳其軍艦難民に就ては
に該難民集の美譽を
め金五圓義捐致度候間可
及御依頼候也
無事
明治廿三年九月廿三日
時事新報社御中

○義金申込の書面
土沈没の不幸を悼み義金申込の多きは本紙の別項に詳かあるが義捐者が本社に送りし書面は机上に堆を爲せり今其二三を左に掲げて此不幸に對する世人の感情を示さん
一金十圓也
土耳其軍艦難民の慘狀は實に言語に絶し候同使節オスマンパンヤ初め隨行之六七名とは小生夫婦一面之痛も有之殊に哀悼之情に不堪候依て貴社の美譽を贊成し聊慰藉を表し度少額御手懸に候へども前記之通差出候間可然御取計被下度及御依頼候也草々
九月二十二日
男爵 高崎 貞正 子
時事新報社御中
土耳其軍艦難民に就ては
に該難民集の美譽を
め金五圓義捐致度候間可
然御取計被下度候也
二十三年九月廿三日
東京慈惠醫院事務員
金一圓
金五十圓
金五十圓
金五十圓
東京慈惠醫院 藤田 高吉
大石 正則
横井 利高
東京慈惠醫院 藤田 高吉
金一圓
金五十圓
金五十圓
山 中 鈴 山
深 川 木 口
春 孝 猪 之 吉
造 次 郎

土軍艦難民者に贈
一金十五圓
北海道
日本橋横町一丁目
同十五圓

八重山を派遣したる譯
土耳其軍艦の生残りたる乗組員六十三名を救助するが爲め我が海軍省より軍艦八重山を派遣したるも同艦の大砲に達したるときは早や既に獨逸軍艦ウオルフの神戶より來りて難民者を伴ひ去りたる後に折角用意したる軍艦の間に合はざりしは乘組士官杯が定めて遺徳に思ひたる所あるべけれど何と云ふにも難民の難早く神戶に達したるのみならず遠近距離の相違もあると云ふ及ばざりしも是非ありき次第あるが如し事を知りて當日横須賀に碇泊(昨日の紙上に品川とせしは誤)したる比叡、金剛の二艦中其孰れをか即日出發せしめたらんには或は後れを取るまじきと外ながら口惜き事